



地震にともなう津波の想定

水俣市の最大津波高・津波波高

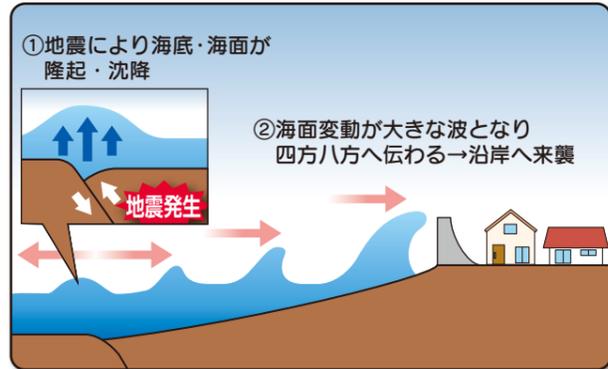
熊本県内の沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される、布田川・日奈久断層帯、雲仙断層群、南海トラフの、3つの地震を対象としました。津波による本市への被害が推定される結果は次のとおりです。

	布田川・日奈久断層帯 (中部南西部の連動型)	雲仙断層群 (南東部単独)	南海トラフ	最大値
津波高	2.5m	2.0m	2.5m	2.5m
津波波高	1.0m	0.5m	1.0m	1.0m

※津波高とは地盤面から波の最頂部までの高さ。
 ※津波波高とは朔望平均満潮位(水俣市=1.5m)から波の最頂部までの高さ。
 ※布田川・日奈久断層帯で地震が発生し津波が発生した場合、数分で到達することが想定されます。

◆津波が発生するしくみ

海底で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝わるものが津波です。「津波の前には必ず潮が引く」という言い伝えがありますが、必ずしもそうではありません。地震を発生させた地下の断層の傾きや方向によっては、また、津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せせる場合もあります。



◆熊本県における過去の主な地震・津波

発生年月日	地域	地震規模	主な被害
744年6月6日 (太平16)	天草郡、八代郡、葦北郡	M7.0	田地290町、民家流出470軒、死者1,520名 ■県内の津波波高：不明
1707年10月28日 (宝永4)	南海トラフ	M8.6	宝永地震。これまでに発生したわが国最大級の地震の一つ。全体で死者2万、潰家6万、流出家2万。■県内の津波波高：0.5~1.0m (八代市)
1792年5月21日 (寛政4)	雲仙岳	M6.4	大地震2回、前山(眉山：天狗山)の東部がくずれ、崩土約0.34km ³ が島原海に入り津波を生じた。対岸の肥後でも被害が多く、津波による死者は全体で約1万5千、潰家1万2千。「島原大変肥後迷惑」と呼ばれた。■県内の津波波高10~20m程度
1889年7月28日 (明治22)	熊本付近	M6.3	飽田郡を中心に熊本県下で被害大。死者20・負傷52、家屋全壊228・半壊138、地裂880、堤防崩壊45、橋梁壊落22・破損37、道路損壊133。
1941年11月19日 (昭和16)	日向灘	M7.2	日向灘地震。大分・宮崎・熊本の三県で死者2・負傷18、家屋全壊27・半壊32
1946年12月21日 (昭和21)	南海トラフ	M7.9	南海地震。被害は中部地方から九州地方にまで及び、全体で死者・行方不明者1,443、負傷者3,842、住宅全壊約9千
1960年5月24日 (昭和35年)	南米チリ沖	M8 1/4 ~ 8 1/2	南米チリ沖で大地震。大津波が発生し地震発生後ほぼ一昼夜を経過して日本の東海岸各地に襲って被害を生じた。本渡市 床上浸水3戸、床下浸水3戸、下長尾 扉門決壊1
1975年1月23日 (昭和50年)	熊本県北東	M6.1	阿蘇郡一の宮町手野地区に被害集中。負傷10、道路損壊12、山(崖)崩れ15。
2011年3月11日 (平成23年)	三陸沖	M9.0	■県内の津波波高：70cm (熊本県では人的被害、家屋等の被害、公共施設等の被害なし)
2016年4月14日、16日 (平成28年)	熊本地方	前震 M6.5 本震 M7.3	最大震度7の揺れがわずか28時間以内に2度発生した。死者264名、重軽傷者2,729名、住家被害は全壊8,663棟、半壊34,498棟

津波から身を守るポイント

津波は地震発生後、あっという間にやってくる場合があります。津波が到達するおそれがある場所にいるときは、できるだけ早く、高いところに逃げる必要があります。津波避難のポイントを知っておきましょう。

津波から身を守るために	命を守るためにとるべき行動	その後は
<p>強い地震や長時間の揺れを感じたら</p> <p>大津波・津波警報が発表されたら(揺れを感じなくても)</p>	<p>沿岸部や川沿いにいる人は、高台や高いビルなど安全な場所へ避難してください。</p>	<p>正しい情報をラジオ・テレビ、防災行政無線などで入手する。</p> <p>津波は繰り返し来襲するので、警報・注意報が解除されるまでは絶対に海岸に近づかない。</p>
<p>津波注意報が発表されたら(揺れを感じなくても)</p>	<p>海水浴や磯釣りはすぐに中止し、すばやく陸上の安全な場所へ避難してください。</p>	

◆津波に関する警報・注意報

気象庁は、地震が発生した時には地震の規模や位置をすぐに推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。

警報・注意報の分類	予想される津波の高さ		想定される被害
	数値での発表(津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の表現	
大津波警報 (特別警戒)	10m超 (10m<高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。
	10m (5m<高さ≤10m)		
	5m (3m<高さ≤5m)		
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれます。また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します

◆津波から避難する4つのポイント

- #### 1 地震の揺れの程度で自ら判断しない

揺れがそれほどなくても津波が起きるケースは、過去にもしばしばありました。明治三陸地(1896年)では、沿岸で震度3程度だったにもかかわらず、大津波が押し寄せています。津波の危険地域では小さい揺れでも、揺れを感じなくても、まずは避難を最優先にしましょう。
- #### 2 避難の際に車は使わない

原則として、車で避難するのはやめましょう。東日本大震災の地震の直後、沿岸部各地では避難しようとする車で渋滞が発生。そのために津波にのみ込まれて命を落とした人が多数出ました。
- #### 3 てんでバラバラに逃げよう

東日本大震災では震災直後、沿岸地域に居住する家族を迎えに行き、津波に巻き込まれた方が少なくありません。あらかじめ家族で避難行動を話し合っておき、それぞれがちゃんと避難するという信頼関係を築いておきましょう。
- #### 4 “遠く”よりも“高く”に

すでに浸水が始まってしまった場合などは、思うように避難できないことが予想されます。そんな場合は、遠くよりも高い場所、例えば近くの高いビルなどに逃げ込みましょう。